

松本市総合交通戦略の策定について

令和7(2025)年3月

1 . 業務全体の実施方針

- (1) 業務目的、内容
- (2) 実施手順
- (3) 業務実施スケジュール

2 . R7業務(調査)の実施方針

- (1) 実態調査の検討
- (2) 調査の実施

3 . R8業務(計画策定)の実施方針

- (1) データ分析
- (2) 前総合交通戦略の評価検証
- (3) 総合交通戦略の策定

4 . 次期総合交通戦略のテーマ・ポイントについて

1. 業務全体の実施方針

- (1) 業務目的、内容
- (2) 実施手順
- (3) 業務実施スケジュール

1. 業務全体の実施方針

(1) 業務目的、内容

業務目的

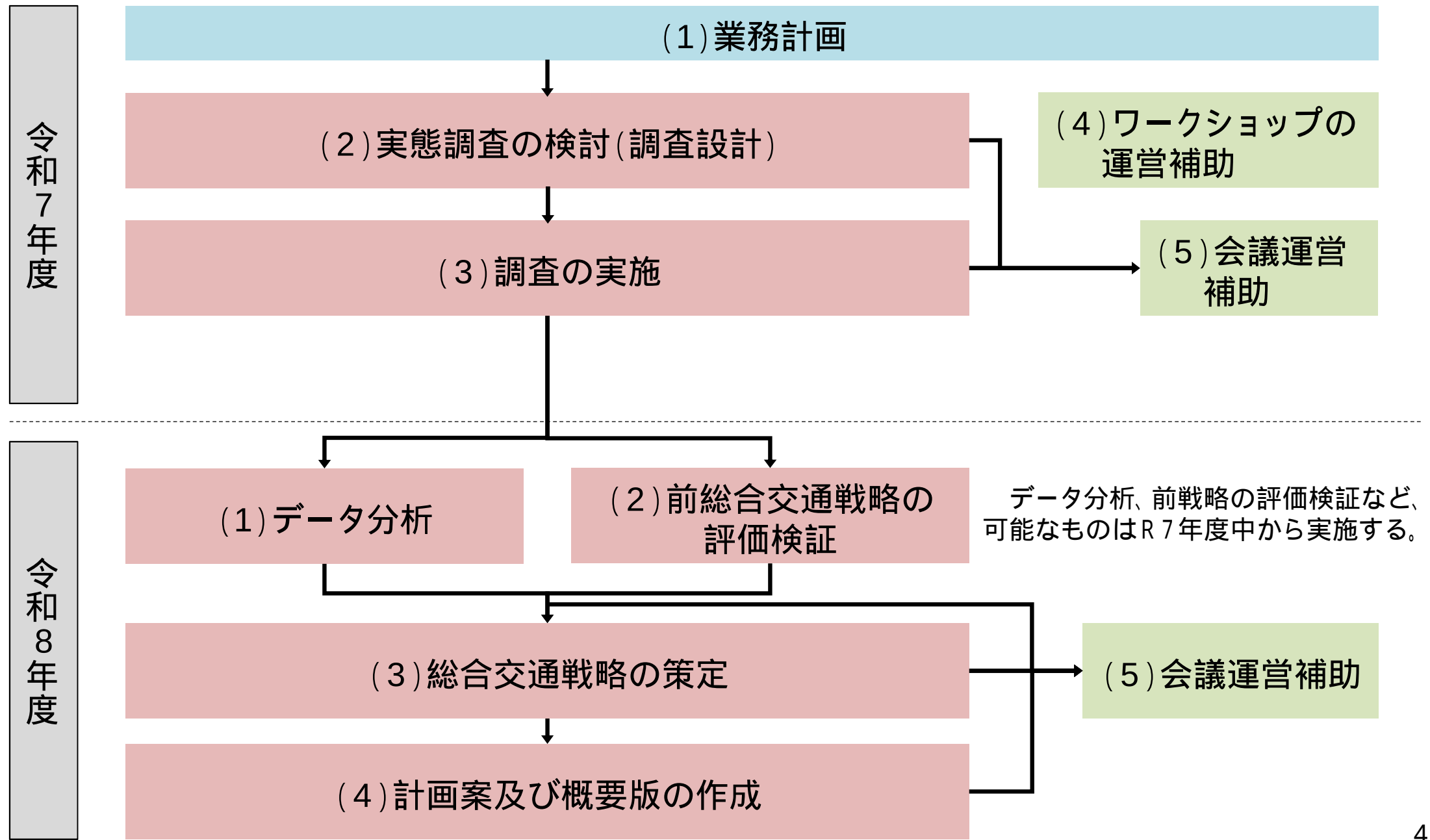
- 松本市では、平成27(2015)年に「松本市総合交通戦略」を策定し、自動車分担率約70%の自動車依存社会から脱却し、歩行者・自転車・公共交通を中心としたあらゆる交通手段がシームレスにつながる人中心の交通まちづくりを目指した様々な取組み(バスの公設民営化、自転車やウォークブルのまちづくり等)を行っている。
- 現計画は、令和3(2021)年に改訂され、令和7(2025)年に満了となることから、本業務では、昨今の社会情勢の変化や新技術の活用などを踏まえた**新たな交通まちづくり**に**戦略的に取り組む**ための**次期計画策定**を行う業務である。

業務内容

- 令和7(2025)年度 : 調査策定に向けた基礎調査
データ整備
- 令和8(2026)年度 : データ分析
現行計画の評価検証
次期計画策定

1. 業務全体の実施方針

(2) 実施手順



1. 業務全体の実施方針

(3) 業務実施スケジュール

令和7(2025)年度

項目		令和7年(2025)年度												備考
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
調査	(1)業務計画													
	1) 業務計画書の作成													
	(2)実態調査の検討(調査設計)													
	1) 調査体系・調査手法等の企画・検討・調整													
	(3)調査の実施													
	1) ミニPT調査		(準備)	(実施)	(結果とりまとめ・データ化)			(結果検証)				マスターデータ整備		
	2) ABSシミュレーション(現況)				(データ整備)				(現況再現・チューニング)					
	3) 自動車プローブデータ				(データ選定)			(購入)		(分析・整理)				
	(4)業務報告書作成													
	1) 業務報告書作成											(作成)		
	(5)ワークショップの運営補助													
	1) ワークショップ(運営補助)						(想定)			(想定)				2回程度を想定
	(6)会議運営補助													
	1) 松本市交通政策検討委員会(運営補助)					(想定)			(想定)		(想定)			3回程度を想定
	打合せ(5回想定)	(着手)			(中間)			(中間)			(中間)		(納品)	着手時1回、中間3回、納品時1回を想定

【ポイント】
・各種データ整備：R8.3までに完了

1. 業務全体の実施方針

(3) 業務実施スケジュール

令和8(2026)年度

項目		令和8年(2026)年度												備考
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
計 画 策 定	(1) データ分析													
	1) 現況分析			(現況分析)										ABSシミュレーション(将来)を含む
	2) 課題整理、要因分析			(課題整理)	(要因分析)									
	(2) 前総合交通戦略の評価検証													
	1) 評価指標による評価													
	2) 施策の達成状況による評価													
	3) 未達成要因の分析													
	(3) 総合交通戦略の策定													
	1) 将来都市像の設定			(将来都市像の検討)										
	2) 戦略目標の設定				(目標検討)									
	3) 評価指標・数値目標の設定					(指標検討)	(目標値検討)							
	4) 施策パッケージの構築					施策検討								
	5) 実施プログラムの設定							(プログラム検討)						
	(4) 計画案及び概要版の作成													
	1) 計画案の作成							(パブコメ案作成)		(パブコメ)	(修正・作成)			パブコメ:1カ月程度想定
	2) 概要版の作成										(作成)			
	(5) 会議運営補助													
	1) 松本市交通政策検討委員会(運営補助)			● (想定)	● (想定)	● (想定)	● (想定)	● (想定)	● (想定)	● (想定)	● (想定)	● (想定)	● (想定)	5回程度を想定
	打合せ(7回想定)	● (着手)		● (中間)		● (中間)		● (中間)		● (中間)		● (中間)	● (納品)	着手時1回、中間5回、納品時1回を想定

【ポイント】
・パブコメ：R8.12に実施

2 . R7業務 (調査) の実施方針

(1) 実態調査の検討

(2) 調査の実施

2. R7業務(調査)の実施方針

(1) 実態調査の検討

諸条件を踏まえた
調査手法

「実態調査」の検討(設計)上の諸条件

松本市全域及び近隣市村の**現状の交通実態**を把握できること

現行計画の**定量的な評価検証**ができること

次期計画の**施策立案**及び定期的なモニタリングが可能な**指標設定**ができること

松本**市内の移動**の他、隣接する市村を中心に、**松本市外からの移動および市外への移動**実態が把握可能なこと

令和元年度に実施したPT調査と各移動手段の**分担率の推移が比較可能**なこと

中心市街地(松本駅の東口側エリア)への通過交通の抑制が検討可能なデータとして、**自家用車の交通実態**を把握できること

次年度に、地域の交通利便性(**アクセシビリティ**)を**分析可能**な形でデータを整備すること

調査手法

ミニPT調査

- ・属性×行動×平休による市民の生活実態を対象に要因分析
- ・のチューニングデータ

ABS-sim

- ・近隣市町との広域流動分析
- +
- ・**将来想定分析(10年後)**

自動車プローブ

- ・市街地の道路を利用する車両の発着地や経路の分析

(1) 実態調査の検討

「調査対象」と「調査体系」の関係

		人の動き				自動車の動き	
		市内	市内	市内 市外	市外 市外	市街地 発着	市街地 通過
居住地	松本市 居住者	ミニPT調査				自動車 プローブ	
	近隣市町 居住者						
		ABS-sim					

(1) 実態調査の検討

ミニPT調査

- 人の「属性」と「行動」を同時に捉える唯一の調査であるPT調査を一般的な規模(6～8%程度)に比べて、**小規模**に実施。
- 従来の平日1日調査ではなく、**平休1日ずつ**を対象とし、多様な分析や戦略的な計画策定、また、本業務以外でも活用可能な調査結果データを作成。
- 全体スケジュールを踏まえ、**R7.6頃**を調査日とした調査を実施。

調査概要

- 調査時期 : 令和7年6月頃
- 対 象 : 松本市居住者の5歳以上(住基台帳から世帯単位で無作為抽出)
- 調査規模 : 約7,800世帯を対象に約2,000世帯(約4,000人)の回収を想定
(目標標本率:**1.77%**)
- 調 査 日 : 平休各1日
- 調査方法 : 郵送配布・郵送回収
- 調査物件 : 都市計画プラットフォームの調査支援ツールを最大限活用

(1) 実態調査の検討

ABS - sim

- ミニPT調査が松本市民を対象とした調査のため、**近隣市町との広域流動**の分析を目的に、「アクティビティ・ベースド・シミュレータ(**ABS**)」を活用した**現況シミュレーション**を実施。
- 現状の交通条件のまま、とした場合の10年後を想定した簡易的な**将来シミュレーション**も行い、課題抽出等に活用。

「ABS」の概要

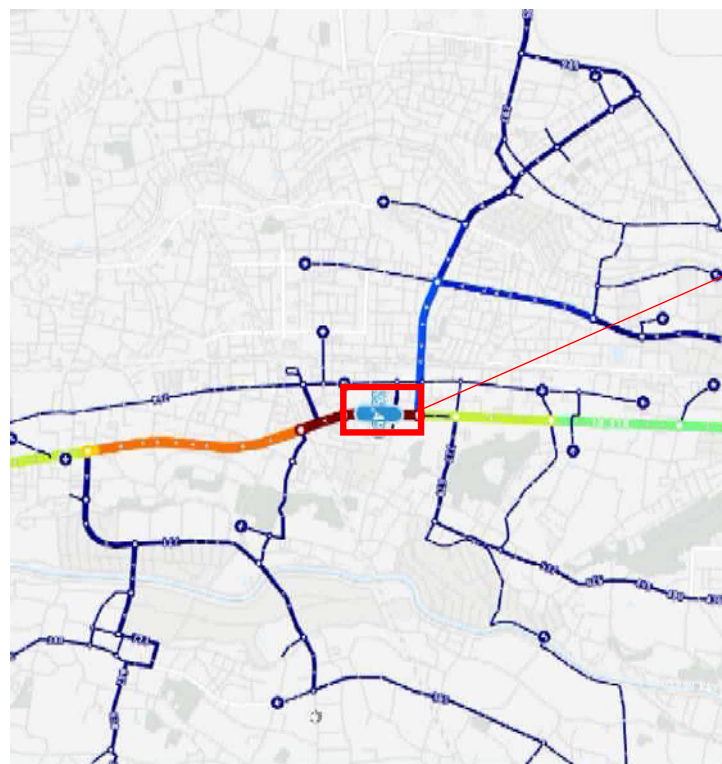
- 国土交通省国土技術政策総合研究所の都市施設研究室が開発。
- どのような属性の人が、どのような場合に、どのような行動をとるか、を**仮想的に再現**するシミュレータプログラム。
- 対象都市のインプットデータ(人口、施設数、交通サービス水準(時間と料金))を整備し、シミュレータに入力すると、**属性ごとの各個人1日の移動**がシミュレーションされる。
- インプットデータを将来値にすれば、**簡易的な将来予測**も可能。

(1) 実態調査の検討

自動車プローブ

- 中心市街地(松本駅の東口側エリア)への自家用車の通過交通等の実態を把握できるデータとして、**自動車プローブデータ**を活用した、分析を実施。
- ある区間を利用している車両の出発地や目的地、前後の経路などの分析を想定。

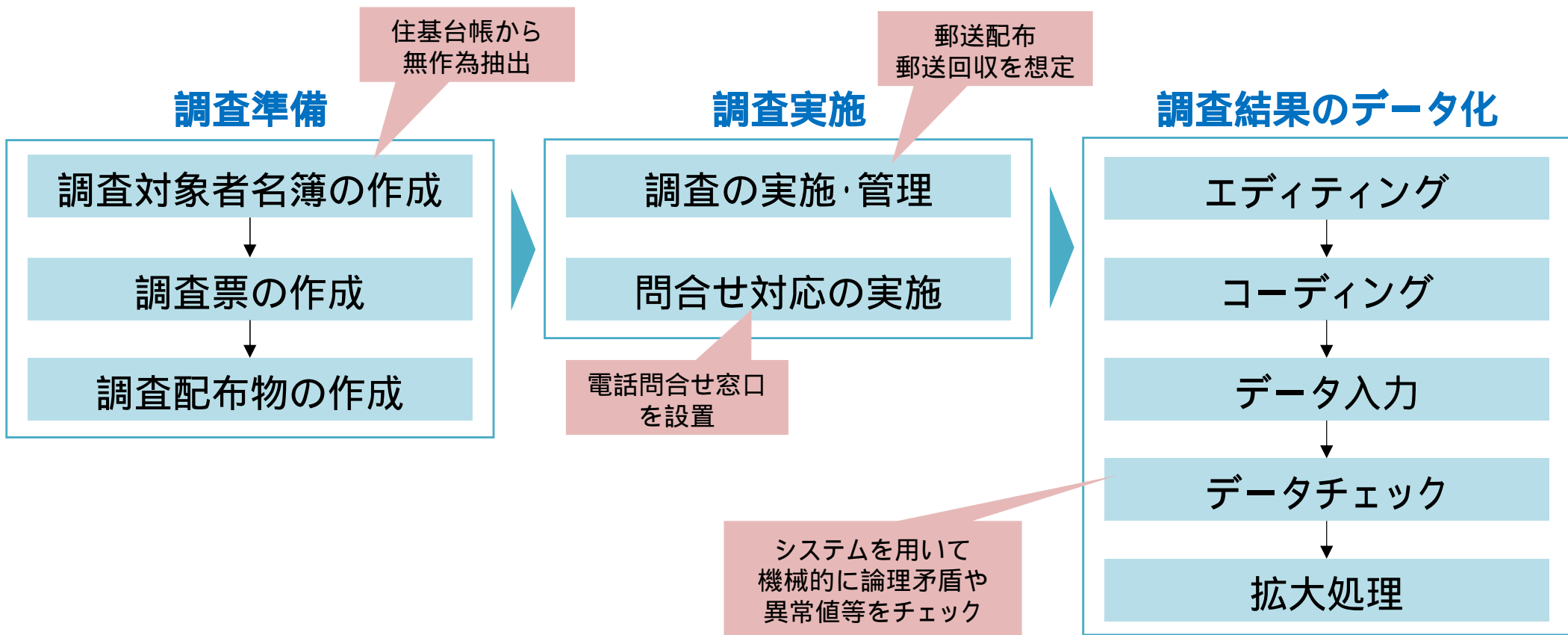
(データ例)



この区間を利用した車両の前後区間の経路を可視化した例。

(2) 調査の実施

- (1)で企画した調査のうち、「ミニPT調査」を松本市内(市民)を対象に実施。



3 . R8業務 (計画策定) の実施方針

- (1) データ分析
- (2) 前総合交通戦略の評価検証
- (3) 総合交通戦略の策定

(1) データ分析

- 上位関連計画(総合計画、都市マスタープラン、立地適正化計画等)で整理されている課題などを踏まえつつ、各種データを用いて、**現状の都市・交通状況**を分析、整理する。

■ データ例

R7業務の調査結果データ(ミニPT調査、ABS-sim、自動車プローブ)

各種統計データ(国勢調査、住民基本台帳人口データ、道路交通センサス、等)

交通事業者の利用者データ(駅乗降客数、路線バスキャッシュレス決済ODデータ、等)

■ 分析例

交通手段分担率(市全体、地域別構想14地域別、属性別、移動目的別、等)

自動車保有と非保有それぞれの交通特性の比較

公共交通利用者の特性 など

- 合わせて、ABS-simのインプットデータ(人口等)の将来値を作成し、**簡易的な将来予測**を行う。概ね戦略実施期間の10年程度先を想定。
- 現況分析と将来予測から、都市構造や交通実態に関する**課題抽出**と**要因分析**を行う。

(2) 前総合交通戦略の評価検証

- 前総合交通戦略(現行計画)の評価検証として、評価指標、施策、事業の進捗と達成状況を評価。
- 評価結果から、未達成部分の要因を分析し、次期計画策定の参考となるよう、とりまとめる。

■ 現行計画の評価指標の例

■市全域に及ぼす効果：環境負荷の低減

指 標	成果指標(案)		進捗管理指標
	現況値	目標値(R7)	
運輸部門におけるCO2 排出量	436 千 t (H28)	359 千 t	

■戦略 1：持続可能な公共交通体制の構築

指 標	成果指標(案)		進捗管理指標
	現況値	目標値(R7)	
1-1 交通手段分担率	自動車分担率 68.5% (R1)	自動車分担率 66.5%	・公共交通利用者数 ・路線バス(幹線)利用者数 ・幹線バスの平均運行本数 ・支線バスの平均運行本数

■戦略 2：自転車の適切な活用の推進

指 標	成果指標(案)		進捗管理指標
	現況値	目標値(R7)	
2-1 自転車関連事故の発生件数(10 万人あたり)	61 件 (R2)	45 件	・自転車通行空間整備延長 ・自転車に関する交通安全教室の実施回数
2-2シェアサイクル利用回数	23,000 回(R2)	45,000 回	・中心市街地における小規模駐輪場整備箇所数 ・シェアサイクルのステーション数

(3) 総合交通戦略の策定

- ・ (1) (2) の結果を踏まえ、以下の項目を検討し、総合交通戦略を策定する。
- ・ 戦略期間は、概ね10年後に当たる **2035年まで**を基本に検討する。

検討項目	検討上の留意点・ポイント
将来都市像	・ 上位関連計画との整合性 ・ 関係者間で共通の目標となるよう、わかりやすさを重視 ・ 中心市街地は、「松本市中心市街地再設計検討会議」の内容を踏まえる
戦略目標	・ 戦略の基本方針として、将来都市像をブレイクダウンした形で設定
評価指標・数値目標	・ 基本はアウトカム指標として設定 ・ 毎年数値を算出することを踏まえ、データ取得や算出の継続性を重視
施策パッケージ	・ パッケージアプローチ型として体系的に整理 ・ (1) (2) の分析結果、未達成の要因分析を踏まえて、設定
実施プログラム	・ 施策の具体の手順、実施時期、主体等を明確化

4．次期総合交通戦略の テーマ・ポイントについて

4．次期総合交通戦略のテーマ・ポイントについて

次期総合交通戦略の策定に向けたテーマ・ポイントについての現時点でのアイデアです

キーワードの1つ

- ・自動車を**利用しなくても**豊かに暮らせるまち
- ・IターンUターン等で**選ばれ続ける**魅力あるまち

背景

- ・若者、特に20代で**急速な自動車離れ**が進む
 - ・東京などに加え、地方部でも運転免許や自由に使う自動車を持たない層が増加
 - ・レンタカー必須な観光地を敬遠する例も
- ・それらの層がライフステージの変化時(結婚、子育て、転職等)、転居を考える際、自動車がないと暮らせない、豊かな生活を送れない都市は、今後それを理由に**敬遠される**可能性
- ・松本は、県内で**人口社会増が1位**。三ガク都に代表される魅力が高い都市であり、移住者が多い現状だが、自動車依存都市のまま推移すると、今後、**交通を理由に移住が敬遠される可能性**も(さらに、免許返納後の高齢者も大都市への移住が増える可能性も)

都市経営の面からも交通が今後重要な課題に

4. 次期総合交通戦略のテーマ・ポイントについて

次期総合交通戦略の策定に向けたテーマ・ポイントに関しての現時点でのアイデアです

自動車を利用しなくても豊かに暮らせる生活の姿(案)

■ 平日

- ・公共交通や自転車通勤、通学
- ・買物は、帰宅途中に立ち寄るか、自宅から徒歩圏内で完結
- ・高校生以上の学生は、家族の送迎なしに自由に移動

■ 休日

- ・中心市街地へ公共交通でアクセス、徒歩で回遊、買物
(時には、レンタカーやカーシェアで、レジャーへ)

自動車分担率を減らす、の視点でなく、あくまで、

- ・自動車を含めた様々な手段を選択できる、
- ・自動車を使わなくても豊かな生活を送れる

という都市を目指してはどうか。

これらのテーマ、ポイントに関してご意見を伺いたい